



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

11月(霜月)二十四節気の11月7日は立冬です。立冬のちょうどその日、ニュースでは「木枯し1号」、富士山の初冠雪(統計開始以来最も遅い初冠雪)が報じられました。つい先月まで夏のようなのに…。11月23日には秋の収穫をお祝い・感謝する新嘗祭(にいなめさい)が宮中や全国の神社で行われます。

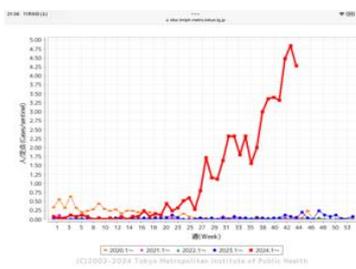
【感染症だより】

～インフルエンザについて～

11月8日厚生労働省はインフルエンザが全国的な流行期に入ったと発表しました。市内でも11月に入って陽性者が出てきました。現在流行している型は、10月までの報告ではAH1pdm09が最多で次がAH3亜型となっています。都道府県別に見ますと、沖縄県が最も多くなりました。新型コロナウイルスの流行が下火になっており、入れ替わった形で出て来ました。例年の本格的流行は1～2月です。重症化が心配な方は年内にインフルエンザワクチンを接種すると良いでしょう。

～マイコプラズマについて～

この秋コロナやインフルエンザよりも流行しているのがマイコプラズマです。感染報告数は過去10年の中でも多い年となっています。マイコプラズマは学童から成人の比較的体力のある方に流行します。潜伏期は2～3週間で、流行は飛沫感染で広がります。咳やくしゃみ、発熱など風邪と区別がつきにくいですが、乾いた咳が長引きやすいのが特徴です。肺炎に至る場合もありますが、ほとんどの場合は軽症です。マイコプラズマ肺炎は、急性期は出席停止となりますが、明確な出席停止期間は定められておらず、症状が軽快すれば登校可能となります。マイコプラズマの熱は長引くことがあります。



熱が出たら、**熱型表**をつけることをお勧めします。数日間熱が続いても、1日1日だんだんと、熱のピークが40.0℃から、翌日に39.5℃、翌々日に39.0℃、その次の日に38.5℃、そのまた次の日に38.0℃といった形で少しずつ下がって来ている場合には、治る傾向であると予測できます。

～りんご病(伝染性紅斑)について～

今年は久しぶりにりんご病が出ています。りんご病はヒトパルボウイルス B19 というウイルスによって感染します。両側のほっぺたが赤くなるのが特徴的です。レース状に淡く赤く出る発疹はほっぺただけで無く、腕や大腿(太もも)、胴体にも出る事があります。発疹が出る1週間～10日前ごろに微熱や風邪症状が見られ、その頃にウイルスが伝染します。発疹が出る頃には伝染力は無く、特に治療はありません。妊娠初期に感染した場合、胎児水腫や流産が生じることがあり、妊婦さんは注意が必要です。

～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)～

寒くなってくる11月、胃腸炎の季節です。食欲不振、嘔気、下痢などお腹の症状が出ます。特に感染しやすいのは、まだ一度も罹ったことの無い乳児です。下痢だけのこともあれば、嘔吐・下痢両方のこともあります。乳児が罹ると、お腹の腸が未熟なために長引くことが多く、数週間下痢が続いてしまうこともあります。全身状態は良くても、下痢が1日に2回以上出してしまう場合や、水様便の場合はお休みしましょう。下痢が長引いてしまう場合には、一過性乳糖不耐症になってしまっていることがあります。一時的に普通ミルクから乳糖の入っていないミルクに替えてあげると良いでしょう。お腹の丈夫な子は、少し食欲が落ちたくらいで済んだり、形のある白いウンチが出るだけで済むこともあります。

表：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病(ヘルパンギーナ6含む)	180
2	溶連菌	117
3	胃腸炎(アデノ3ノロ2含む)	75
4	とびひ(伝染性膿痂疹)	10
5	咽頭炎(ウイルス7ノロ熱)	4
5	新型コロナウイルス	4
5	RSウイルス	4
8	インフルエンザA	1
8	突発性発疹	1
8	りんご病(伝染性紅斑)	1

★マイコプラズマ感染症とみられる症状の患者さんも多く受診されていますが、迅速検査を行っていないために記載していません。



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況**は Web で **しみず小児科・内科クリニック**のホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話**でお願い致します。
- ★**キャンセルをされる場合** **留守番電話**で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年10月よりファイザー社製の小児肺炎球菌ワクチンが13価のものから20価の製品に変わりました。いずれも同じ肺炎球菌に対するワクチンですが、より広い範囲の型に対応します。9月までにMSD社の15価のもので開始した方は原則としてそのまま15価で継続するよう定められています。

